

## 「語りの会」近況報告

はまゆう会「語りの会」を始めて9年目、ほぼ100名の透析患者さんの語りを収録することができました。発起人としてはこれ程続けられるとは思っても寄らぬことでしたが、これも偏に「語りの会」チームメンバーのたゆまぬ努力と、はまゆう会文化の支えがあってこそと感謝しております。

「語りの会」に取り組んだ動機やその意味については度々述べてきましたが、つまるところ「語りの会」は患者さん自身が耳を傾けてくれる人を前にして、自らの言葉で自分の人生を物語ることにより自分というものを知る(アイデンティティ)場である、との考えに至りました。このことは本年度の日本サイコネフロジー研究会で発表した要旨を基に『透析現場を悲劇の演目にしないために』と題して先般サイボウズに載せておりますので、是非ご一読下さい。

お話を伺えた患者さんは、これまで私共が携わってきた人達の15%にしかすぎません。できるだけ多くの患者さんに語っていただけるためには、こまめに広報を心掛ける必要があります。

先日「語りの会」懇親会で以下のことが話題となりました。

①「語りの会」を今後続けていくには、《患者さんの選択・ヒストリーを始めとした前準備・収録(ダビング作業など)と書き起こし・回覧(DVD)・再チェック・まとめ》といった作業が欠かせません。これまで負担を強いてきた書き起こし作業は、書き起こし専門業者に依頼することにしました。

②「語りの会」参加の特典

(i)収録DVDの閲覧(会員間の回覧)を致します

(ii)希望があれば書き起こしを体験することができます

(iii)各収録の省察のため月一回の昼食会を計画しています

(iv)年1~2回の親睦会(会費不要)があります

③「語りの会」の参加と退会は自由意志によります。

④はまゆう会結成30周年記念として「透析患者さんの語りの会」収録を賛同者の承諾を得て発刊する予定です。

(以上)

少しでも関心がある職員の方は「語りの会」を覗いてみてください。各職域の上司の方は、彼等の後押しをお願いします。

平成28年11月1日  
はまゆう会会長 市丸 喜一郎